

日本植生史学会ニュースレター

No.56 May 9, 2022

第 37 回日本植生史学会大会のご案内（第 1 報）・学会ニュース

第 37 回日本植生史学会大会のご案内（第 1 報）

第 37 回日本植生史学会大会を、日本花粉学会第 63 回大会と合同で、下記のように行います。

- ◆ 開催日程：2022 年 10 月 1・2 日（土・日）

※ 例年より早い時期の開催ですのでご注意ください。

- ◆ 開催方法

会場とオンラインのハイブリッド形式での開催を検討しています。7 月頃に開催方法を決定し、詳細をお知らせします。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、すべてオンライン開催になる可能性もあることをご承知おきください。

- ◆ 会場：奈良文化財研究所平城宮跡資料館 講堂

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 <https://www.nabunken.go.jp/hei-jo/museum/>

アクセス 近鉄大和西大寺駅から徒歩で約 15 分。

- ◆ 懇親会：オンラインでの開催を検討しています。

- ◆ 巡検：現地集合・現地解散で半日程度の巡検を検討しています。

- ◆ 宿泊

各自でご予約ください。大会会場周辺には宿泊施設が少ないですが、近鉄新大宮駅もしくは近鉄奈良駅周辺には宿泊施設がございます。大会会場の最寄駅の近鉄大和西大寺駅へは、JR からのアクセスがしにくいのでご注意ください。

- ◆ 主催 日本植生史学会 日本花粉学会

共催 奈良文化財研究所

- ◆ 実行委員

星野安治（委員長）、山崎健、庄田慎矢、西原和代、浦蓉子、上中央子、前田仁暉、真邊彩、池田浩己、伊藤由紀子、林竜馬

- ◆ 公開シンポジウム 「奈良の森と花粉と人のいま・むかし」（仮題）

日本植生史学会と日本花粉学会の合同での大会に際し、「森」・「花粉」・「人」をテーマとした 2 部構成の公開シンポジウムを開催する。奈良は古代には、藤原京、平城京といった本格的な都城が造営された地であ

り、大型の木造建造物の造営に木材が多用されるなど、人間の植生に対する干渉が激しかったことが推定されている。一方、現在の奈良は、県面積の約7割が豊かな森林に覆われており、県南部の吉野地域においては吉野杉をはじめとした林業が基幹産業となっている。このような背景のもと、第1部では遺跡を対象とした花粉分析や出土木材の検討から、古代における奈良の植生や木材の利用について、研究の現状と課題について議論する。第2部では、奈良や近畿における民俗学的な森林利用、また花粉飛散の状況や花粉症に関する医学的な臨床的対処がどのように進んでいるのかについて議論したい。

本シンポジウムでは、以下の講演を予定しています（テーマ・演題は、すべて仮題です）。

第1部「古都奈良の植生と木材利用」

「奈良時代の植生や木材利用はどのように語られてきたか」 前田仁暉（京都大学・博士後期課程）

「遺跡の花粉分析データからみた奈良盆地の森林植生の変遷」 上中央子（奈良文化財研究所・客員研究員）

「古代の奈良盆地における木材利用の変化」 浦蓉子（奈良文化財研究所・研究員）

第2部「奈良の森林利用と花粉症の過去・現在・未来」

「吉野の林業と森林利用の民俗学的変遷」 森本仙介（奈良県文化財保存課）

「関西の花粉飛散状況の現状」 小原由美子（日本気象協会）

「奈良における花粉症と治療の現状」 山下哲範（奈良県立医科大学）

学会ニュース

● 国際会議での参加発表への補助

日本植生史学会では、海外で開催される、植生史学に関わる国際会議で講演を行う学生会員またはこれに準ずる会員（研究機関などに在籍し常勤職に就いていない40才以下の会員に限る）に対し、参加費等に充てるため1人5万円を補助いたします。対象となる国際会議は、2021年10月1日から2022年9月30日までに開催される（された）ものが対象で、すでに終了したものも応募可能です。

補助金を希望する方は、件名を「国際会議参加費補助申請」として2022年7月末日までに下記項目を電子メールにて庶務幹事宛（hbmain@hisbot.jp）までご提出ください。申請内容に基づき日本植生史学会の幹事会にて公正に検討し、助成の可否について2022年8月中旬頃までにご連絡いたします。助成が決定した場合、大会での発表を確認後にご指定の振込先に送金します。

1. 氏名、
2. 所属機関（学生会員でない方は詳細な職名もご記入ください）、
3. 国際会議の名称、
4. 発表題目(英語)、
5. 発表要旨(英語)、
6. 連絡先（住所、電話番号、E-mail）、
6. 振込先（銀行名、支店名、口座番号など）

● 次年度シニア会員制度申請のお知らせ

日本植生史学会では、植生史学分野に長年携わり活躍されてきた会員に、定年退職後も学会活動への継続的な参加を期するため、「シニア会員」の制度を設けています。

すでに60歳となり定年を迎えた方や、今年3月に定年を迎えた方など、常勤の職を持たない60歳以上の正会員

の方で、シニア会員への会員種別の変更を希望される方は、2022年8月末日までに申請書（学会HPよりダウンロードできます）に必要事項を記入の上、庶務幹事宛にお送り下さい。申請書のダウンロードができない方は庶務幹事にお問い合わせ下さい。幹事会での承認を経て、次年度（2023年度：2022年10月1日-2023年9月30日）よりシニア会員として登録されます。登録の流れについては下図をご覧ください。シニア会員は日本植生史学会において正会員と同じ権利を持つものとし、会費は3,000円とします。

	2022年										2023年			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
年度	2022										2023			
学会年度	2022										2023			
	←申請→										承認			
											シニア会員として登録、以降の会費は3,000円			

● 会費納入のお願い

2022年度の会費納入にご協力ください。

日本植生史学会会費（2010年度より）一般会員：6,000円・学生会員：3,000円・シニア会員：3,000円・団体会員：8,000円・賛助会員：一口20,000円とし一口以上とする。
会費納付先：郵便振替口座 00980-8-70087 加入者名 日本植生史学会

● 異動・所属変更に伴う会員情報変更のお願い

学生会員及び一般会員の方で、異動、所属変更等がある方は、以下の日本植生史学会事務局にご連絡ください。

事務局：

- 連絡・問合せ 庶務幹事 村上由美子 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館
TEL：075-753-3279 庶務：hbmain@hisbot.jp 会誌投稿：journal@hisbot.jp
- NL編集 ホームページ・企業広告問い合わせ 広報・渉外幹事 西内李佳 広報・渉外：hbnews@hisbot.jp
- 入会・異動・退会の申し込み、バックナンバーの購入、メーリングリストアドレスの登録・変更、NL発行
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル 株）春恒社 学会事業部内
日本植生史学会事務局
Tel：03-5291-6231 Fax：03-5291-2176 Mail：hisbot-office01@shunkosha.com
- 学会ホームページ <http://hisbot.jp/>